(第三種郵便物認可)

ショップスタッフが競う

結心会 第1回熱血！ ロープレ甲子園

6名が研鑽した技を披露

来店型保険ショップを運営する代理店などで組織する保険健全化推進機構「結心会」は8月24日、約100人が参加し、東京・千代田区のスクワール麹町で「第一回熱血！ ロープレ甲子園」と銘打った研鑽会を開いた。

挨拶する上野会長

優勝した稲葉さん(左)

レビCMで医療保険に関心を持ったという35歳の主婦が通りすがりにショップを訪問したという設定で、各自15分の持ち時間で来店客へのヒアリングを行い、次回来店のアポイントをとるというもの。各自がさまざまな話法や顧客対応を試みながら、ロールプレイング方式で接客力を競い、同会の上野直昭会長やコンサルティング会社代表など4氏が審査した。

最初の演技者は草間あゆみさん（アセットガーディアン㈱）。入社1年目で演技のトップバッターだったということもあり、緊張の面持ちだったが、懸命に接客する姿が審査員に好印象をもたらした。

二番手は関口明さん（㈲FPコンサルタント）。軽快なテンポで来店客との対話をリードし、コミュニケーションを図っていた。背が高く客役と身長差があったためか、背筋が曲がっていた点を指摘。良い姿勢での接客を希望するとのアドバイスがあった。

三番手は竹野入綾香さん（アセットガーディアン㈱）。情報収集の際の深掘りがみられなかったものの、歯切れ良く物怖じしない接客を審査員は評価。同社入社が今年7月で保険業界は初めてということが、審査員を一層驚かせた。

四番手は白木秀之さん（㈲FPコンサルタント）。保険募集歴20年で、ショップの経験も5年というだけあって、終始自身のペースを保ちつつ、落ち着いた様子で接客。一方、審査員からは、もう少しお客様に話をさせてあげてもいいのでは、という指摘もあった。

五番手は稲葉えい子さん（㈱吉野エージェンシー）。こちらも長年、生保会社で営業職員をしていたということもあり、来店客に話を合わせつつ、ゆったりとしたペースで接客。審査員からは「お客様との価値観を共有する点がうまかった」との声があった。

六番手は櫻井悠さん（㈱日本テレメッセージ）。事前にエントリーはしていなかったが、自身のスキルを高めたいということから急きょ参戦。審査員からは早口が目立ったという指摘があった一方で、「自己開示ができているのでお客様も心を開いてくれる」と評価。

演技終了後に審査員による審査が行われた結果、優勝は五番手の稲葉さんに決定。稲葉さんは「自分のなかに足りない部分を改善しながら、日々仕事をしていきたい」と挨拶した。最後に上野会長が参加者に向けて「相手の胸元にボールが届くように、（対話という）キャッチボールをしっかりしてもらいたい」と挨拶し、閉会した。

損保ジャパン大阪 ファミリーデー実施

損保ジャパンは8月24日、大阪市中央区の大阪ビルでファミリーデー（職場参観日）を実施した。職場コミュニケーションの活性化、職場への家族の理解を深めてもらう目的で行われ、24家族（子ども36名、大人16名）が参加した。石井雅実副社長（関西第一本部長）から、損保ジャパンがどういう会社なのかについて説明を受けた後、参加者は各職場を訪問。日ごろ見ることのない家族の働く姿を見学し、子どもたちは事前に作成した名刺を使い、職員と名刺交換を体験した。

また、同ビル9階の茶室「安分庵」見学ツアーに参加したり、食堂に設けられたイベントコーナーで、ぬり絵やペーパークラフト作成、スーパーボールすくい、自動車運転体験、お菓子パーティーなどを楽しんだ。なお、前回のファミリーデー（今年2月）に比べ、参加人数は倍に増えた。

24家族が職場を訪問

外来魚駆除釣り大会

日本興亜損保滋賀支店

日本興亜損保滋賀支店（阪中昌司支店長）では、8月27日、同支店・損害サービスセンターの社員や家族、および中核代理店会（名称「琵琶湖会」）の会員とその家族73名が参加し、「社会貢献活動琵琶湖外来魚駆除釣り大会」を開催した。同活動は、ブルーギル等の外来魚を駆除し在来魚を守るという滋賀県の「琵琶湖の豊かな生態系を取り戻す取組み」の主旨に賛同し、社会貢献活動の一環として行ったもので、当日は快晴下約3時間の釣りを行い、参加者全員で415匹の釣果を得た。

阪中支店長は「みんなで真剣かつ楽しみながら釣りをした結果、大きな成果を得ることができた。今後も様々な形で社会貢献活動に取り組んでいきたい」と話した。

73名が参加

三井住友

インドネシアで営業開始

シナールマスMSIG生命

三井住友海上は、5月2日にインドネシア・シナールマスグループ傘下のシナールマス生命と合意した戦略的資本提携につき、8月12日にインドネシア政府財務省より「シナールマスMSIG生命」としての営業開始についての最終認可の通知を受け、営業活動を開始した。同社は、すでに7月1日付でシナールマス生命が行う第三者割当増資を引き受け、出資比率50%のパートナーとなっており、今回最終の認可を受け、インドネシアでの同社の生命保険事業が正式にスタートする。

同社は、同提携事業を早期に軌道に乗せることにより、成長著しいアジア市場で一層の事業基盤の拡大を目指す。

同社がシナールマス生命（非上場）の第三者割当増資を単独で引き受けた金額は、7兆インドネシアルピア（約672億円）で、出資後の株主構成はシナールマス・マルチアルタ（シナールマス・グループの金融持株会社）が50%、同社が50%。また7月1日付で日本から常勤の役職員3名を派遣し、経営への参画を開始するとともに、このほどの「シナールマスMSIG生命」への社名変更により、正式にインドネシアでの生保事業をスタートさせた。

シナールマス生命は、銀行窓販を中心に富裕層への貯蓄性商品（養老保険等）の販売により成長してきた会社で、今後、さらに収益性を高めるため、同社の既存顧客である富裕層への販売に加え、インドネシアの巨大な中間層市場の深耕に向けた保障性商品（収入保障などの死亡保険や医療保険）の販売強化を目指す。具体的には、グループの三井住友海上きらめき生命や三井住友海上プライマリー生命が、国内生保事業で培った損保系生保のビジネスモデルを、商品や研修・教育体制など各種ノウハウの提供を中心に、インドネシア生保市場へ応用する予定。

シナールマス生命は、これまで収入保険料・純利益とも毎年20%超の伸びを示してきたが、「シナールマスMSIG生命」となった以降も、市場の成長と同提携の進展により年間30%超の伸びが見込まれている。

また、インドネシア損保業界で第6位に位置する同社損保顧客への生保追販も積極的に行い、生損クロスセルによる相乗効果も期待している。

「シナールマスMSIG生命」は、1985年に開業、2010年度の生命保険収入保険料は約891億円、純利益52億円。従業員数は591名（同年度12月現在）（為替レート1ルピア=0.0096円で換算）

BookGate

音楽のようにネットで本をダウンロードする時代。ユーザーの多種多様なニーズに応えるため、BookGateは幅広いジャンルからさまざまな電子書籍を用意。読みやすいビューアで快適に読書が楽しめます。BookGateで、新しい読書の扉を開いてください。

©iPhone / iPod touch / iPad向け電子書籍

まずはAppStoreで「BookGate」を検索!!

株式会社廣済堂
〒108-8378　東京都港区芝4-6-12
TEL.03-3453-0550
http://www.kosaido.co.jp/